

共和コンクリート工業株式会社		業種	製造業		
		事業所所在地	北海道札幌市		
被承継者		承継者			
	大丸コンクリート工業株式会社		共和コンクリート工業株式会社		
	事業承継時年齢		71歳	事業承継時年齢	60歳
	業種		製造業	業種	製造業
	事業所所在地		栃木県矢板市	事業所所在地	北海道札幌市
	資本金		40,000千円	資本金	300,000千円
従業員数	11名	従業員数	452名		
事業承継前の主たる事業内容		事業承継前の主たる事業内容			
主に、道路・下水道等で使用されるコンクリート製のマンホール・柵・蓋の製造及び販売		道路・農業・河川などに使用されるコンクリート製品の製造及び販売			
被承継者と承継者の関係		従業員（親族外）			
事業承継の経緯					
事業承継の検討を開始した時期：2017年9月					
被承継者		承継者			
コンクリート製品市場において特徴のある製品を製造販売し資本蓄積していたが、近年は売上が少なく現状維持が精いつらい状況。新規市場への参入の方策も見当がつかない中、後継者もいない。	承継前の事業課題	栃木県内におけるコンクリート製品の生産拠点と特徴のあるコンクリート製品の取り扱い			
①生産拠点の集約・縮小再生産 ②市場に対する供給責任・雇用の維持	事業課題解決のために、 ①他に検討した手法は？ ②なぜ事業承継を選択したか？	①同業の協会社との友好関係の構築 ②M & A 仲介会社より魅力的な会社の紹介があったため			
M & A 仲介会社による	相手先との交渉開始のきっかけ	M & A 仲介会社による			
特になし	課題と克服 ①財務	特になし			
特になし	課題と克服 ②取引先との調整	特になし			
特になし	課題と克服 ③社内調整	特になし			
特になし	課題と克服 ④諸手続き	特になし			
事業承継を行った時期：2018年2月					
事業承継の形態	事業承継 成立の決め手になったのは？				
■ 株式譲渡 共和コンクリート工業株式会社が 大丸コンクリート工業株式会社の全株式を譲受。	被承継者	承継者			
	大手のコンクリート製品メーカーに事業譲渡する事で、社員の雇用を長期的に守る事が出来る可能性が高くなる。	特徴のある取扱い製品と生産技術。長年の顧客との信頼関係及び知名度。			

新たな取組の標題	
株式譲渡による関係会社の完全子会社化により、製造工場の閉鎖・集約による生産性向上及び製造コスト削減並びに営業所の移転による売上増大を図る。	
新たな取組の内容	商品の新たな生産又は販売の方式の導入
<p>●新たな取組の内容といたしまして、今回事業承継補助金で支援して頂き、新設した工場では今までは小型製品しか生産できなかった工場が、2トクラスの中型製品まで生産出来るようになりました。対応品種が増えたことにより、当社の新たな戦略として、顧客ニーズにやプレキャスト化に向けた「特注柵」や「特注浸透柵」に力を入れております。</p> <p>●また、蒸気自動制御装置により、品質性能の向上、不良品率の軽減に繋がっています。工場の集約により光熱費の縮小や、今までロスが出ていた工場間の製品の移動もなくなりますので効率的にも良くなりました。生産面におきましても無駄を省いた連携体制で順調に上がってきております。</p> <p>●今後も、我々の得意分野であります各用途のコンクリート柵や上下水道製品をベースとした特殊技術を身に付け、付加価値を付けた製品を提供していきたいと考えております。</p>	
  	
地域経済やバリューチェーンへの貢献	補助対象経費の内訳
即時対応をモットーにして、同業他社より信頼を得ることにより、競争ではなく「柵は大丸から買う」の位置付けの確立を目指しています。また、地域経済においては2022年に開催される栃木国体に向けての整備事業で、自社製品及び協会社製品を受注することができ、メーカーとして全力で取り組んでおります。	<p>■ 設備費 ■ 廃業費</p>  <p>経費の主な使い道</p> <p>設備費（工場新築工事費、蒸気自動養生制御装置・配管工事費） 廃業費（工場解体工事費）</p>
認定経営革新等支援機関から受けたサポート内容	
<input checked="" type="checkbox"/> 制度内容の理解	<input type="checkbox"/> 事業計画の立案
<input type="checkbox"/> 各種提出書類の作成	<input type="checkbox"/> 補助事業の実施
<p>今回支援機関となって頂いたメイン銀行には、黒羽工場閉鎖と矢板工場への生産拠点集約に伴うコスト削減についてご理解頂くと共に、設備投資関連の新規融資を引き受けて頂いております。現在の状況は、黒羽工場閉鎖に伴う生産拠点の集約までの段階ではありますが、矢板工場の新築により従来に比して大型製品を生産する能力を備える事が出来たので、引き続き支援機関に相談しながら事業展開して参りたいと考えております。</p>	
今後に向けて～次の目標	
2018年から2021年に向けて	大丸コンクリート工業株式会社は、コンクリート製品業界の中で会社組織としては小さな企業で少品種少量生産を旨としており、現場現場に応じた特注製品にフレキシブルに対応出来るだけの生産技術を持っていると自負しております。今回の設備投資をきっかけに年1%の生産性向上を実現すべく、日々の改善活動を推進していく所存です。
労働生産性	3 %UP
これから事業承継に取り組む事業者の方へ	
被承継者からの一言コメント	承継者からの一言コメント
今回、縁がありまして共和コンクリート工業株式会社に大丸コンクリート工業株式会社の事業をお任せする事になりました。おかげ様で社員の雇用を継続する事が出来ましたが、今回私が長年実現出来なかった工場の集約化と設備投資を、補助金を活用し実施したと聞き、大丸社の強みがさらに生かされると思います。大丸コンクリート工業の今後の発展を願っております。	コンクリート二次製品業界の特徴として、各々の会社が地域における地場産業の役割を担っているという事があると考えております。生産された製品は地元周辺のインフラ整備・防災などを目的とする工事に供給される事が多く、工場と働いている方も工場周辺の地元の方が多く、取引も地元の会社を中心になります。当社と致しましては引き続き業界の横のつながりを大切に、供給責任を果たし、地域における雇用の安定、地元経済への貢献を信条としていきたいと考えております。